

○ 草の根パートナー型

2017年度第2回 採択内定案件

提案事業の概要	
1. 対象国名	モンゴル国
2. 事業名	地方での生計維持を目指した養蜂振興プロジェクト (BeeDep-MONGOL 2)
3. 事業の背景と必要性	<p>モンゴルは、現在、都市と地方の生活格差と都市部内の貧富の差の拡大という課題を抱える。首都への一極集中は激しく、地方において、生活や所得を安定させ、かつ、脆弱な自然環境を保全する産業の開発が、喫緊の課題である。</p> <p>他方、養蜂の主たる生産物である蜂蜜は、食品として極めて安定した性質を持ち、インフラを必要としない。また、養蜂は受粉機能を担う。多くの植物はミツバチ等授粉昆虫に再生産を依存しており、草原も例外ではない。近年、モンゴルではハウス栽培を含む作物生産が拡大しているが、ミツバチやマルハナバチは、生産資材の一つともいえる。</p> <p>こうした背景を考えると、地方での生計維持に貢献する持続的な産業として、養蜂は有望である。しかし、現在モンゴルでは、安価で品質の良い蜂蜜が大量に輸入されている上、新規養蜂参加者が急増しており、市場環境は厳しさを増している。技術力を向上した上で、品質の良い蜂蜜を生産し、商品を多角的に展開していく必要がある。</p> <p>2018年4月までの前身事業（フェーズ1）では、ミツバチ飼育技術の移転による蜂蜜の生産性向上、生産工程管理による品質向上と養蜂人材の育成を図った。その結果、対象地域の蜂蜜生産性や品質は大きく向上し、指導的養蜂家が育成されるなど、成果が上がっている。一方、対象域外への成果の普及や販売の改善は十分でなかった。そのため、フェーズ1の成果（飼育技術および品質管理マニュアルや育成した人材）を活用しつつ、他地域に普及するため、マニュアルの検証と販売改善を含む養蜂経営改善のパイロット事業を実施する。そのうえで、マニュアル活用のための手順を整理し、マニュアルとともに手引書としてとりまとめ、養蜂振興の標準的手法として策定する。</p>
4. プロジェクト目標	地方での生計維持を目指した養蜂振興の標準的手法が策定される
5. 対象地域	ダルハンオール県（パイロットサイト）
6. 受益者層	ダルハンオール県を中心とする養蜂家
7. 生み出すべきアウトプット及び活動	<p><アウトプット></p> <ol style="list-style-type: none"> パイロットサイトにおいて、飼育技術マニュアルが検証される。 パイロットサイトにおいて、品質管理マニュアルが検証される。 パイロットサイトにおける実証を踏まえ、養蜂経営マニュアルが作成される。 他地域でマニュアル3種が活用される。 <p><活動></p> <p>現地指導者とともに、飼育技術指導を通じて、飼育技術マニュアルを検証・改訂する。 現地指導者とともに、品質管理指導を通じて、品質管理マニュアルを検証・改訂する。 販売方法と販路を多角化し、養蜂経営マニュアルを作成する。</p> <p>マニュアル3種を活用するために必要な手順を整理し、他地域での実際の活用を支援するとともに、活用経験を踏まえて手引書をまとめる。</p>
8. 実施期間	2019年3月～2021年12月（2年10ヵ月）
9. 事業費概算額	64,296千円
10. 事業の実施体制	<p>モンゴル側C/P：食糧農牧業軽工業省畜産政策実施調整局</p> <p>実施団体：公益社団法人国際農林業協働協会</p>
II. 応募団体の概要	
1. 団体名	公益社団法人国際農林業協働協会
2. 団体の活動内容	食料・農業分野における、1) 諸外国との相互理解促進、2) 国際協力の円滑かつ効果的な推進、3) 国際協力に携わるパートナーとの協働を通じ、国際経済社会の発展を目指した活動を実施
3. 対象国との関係、協力実績	①2013年度、農林水産省補助事業により養蜂技術指導事業を実施、②2015年4月から3年間、JICA草の根技術協力事業により「養蜂振興による所得向上プロジェクト」（BeeDep-MONGOL）を実施した。本プロジェクトは②のフェーズ2となる。